

FFG

ディスクロージャー誌

2021

あなたのいちばんに。編

FREE

¥0

ご自由にお持ち帰りください。

特集

未来の 銀行を創る

～「みんなの銀行」というチャレンジ～



「持続的な成長の実現に向けて」
トップメッセージ

デジタル化で
もっとラクに! スムーズに!
ふくぎんEASYBIZ

2020年度の
業績ハイライト

サステナビリティへの
取り組み

あなたのいちばんに。

未来に向けて、新たな一歩を

Minna no Ginko



みんなの銀行、ゼロバンク・デザインファクトリー、iBankマーケティングのオフィス風景

地域とともに、お客さまとともに
 成長していく存在となることを
 目指しています。
 いちばん近くで
 いちばん頼れる
 いちばん先に行く
 それが、私たちからお客さまへの約束です。

Contents

- 2 グループ銀行プロフィール、
FFGのネットワーク
- 3 トップメッセージ
「持続的な成長の実現に向けて」
- 5 **特集 未来の銀行を創る**
- 7 FFG TOPICS
- 9 FFGの商品&サービス
- 11 サステナビリティへの取り組み 2021
- 13 ふくおかフィナンシャルグループ
経営戦略
- 14 業績ハイライト

PROFILE

グループ銀行 プロフィール

2021年3月末日現在

ふくおかフィナンシャルグループは
九州を基盤とした
広域展開型地域金融グループです。



設立日 平成19年4月2日
本社所在地 福岡市中央区大手門一丁目8番3号
資本金 1,247億円
従業員数 8,103人
電話(代表) 092-723-2500
URL <https://www.fukuoka-fg.com/>

連結子会社

27社

(うち福岡銀行連結14社・
十八親和銀行連結4社)

格付情報

A+ R&I
発行体格付

A JCR
長期発行体
格付

福岡銀行

①昭和20年3月31日
②福岡市中央区天神二丁目13番1号
③823億円
④3,568人
⑤092-723-2131
⑥<https://www.fukuokabank.co.jp/>

明治10年、第十七国立銀行として創業。
九州全域を営業エリアとする。

貸出金	資金量	格付
11.2 兆円	12.5 兆円	AA- ^{*1} A+ ^{*2} A3 ^{*3}

*1 R&I 発行体格付 *2 JCR 長期発行体格付 *3 Moody's 長期預金格付

①設立日 ②本店所在地 ③資本金 ④従業員数 ⑤電話(代表) ⑥URL

熊本銀行

①昭和4年1月19日
②熊本市中央区水前寺六丁目29番20号
③100億円
④830人
⑤096-385-1111
⑥<https://www.kumamotobank.co.jp/>

昭和4年創業。
熊本県内を主要営業エリアとする。

貸出金	資金量	格付
1.8 兆円	1.5 兆円	A+ ^{*1} A+ ^{*2}

十八親和銀行

①昭和14年9月1日
②長崎市銅座町1番11号
③368億円
④2,340人
⑤095-824-1818
⑥<https://www.18shinwabank.co.jp/>

創業は明治時代。
長崎県を主要営業エリアとする。

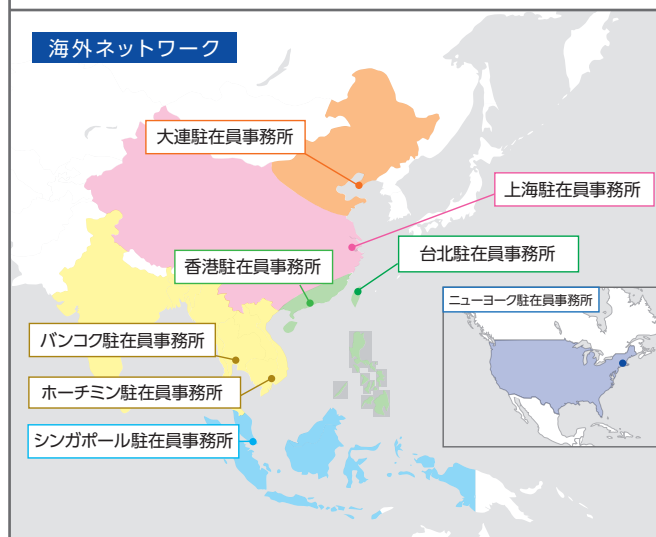
貸出金	資金量	格付
4.1 兆円	5.3 兆円	A+ ^{*1} A+ ^{*2}

NETWORK

FFGのネットワーク

2021年5月末日現在

海外ネットワーク



合計

本支店: 414店舗
出張所: 14ヶ所
ATM: 2,455台

福岡

本支店: 166店舗
出張所: 4ヶ所
ATM: 1,248台

大分

支店: 3店舗
ATM: 10台

長崎

本支店: 157店舗
出張所: 9ヶ所
ATM: 903台

佐賀

支店: 10店舗
ATM: 29台

熊本

本支店: 64店舗
出張所: 1ヶ所
ATM: 245台

九州外

支店: 9店舗
ATM: 11台

鹿児島

支店: 4店舗
ATM: 7台

宮崎

支店: 1店舗
ATM: 2台

※福岡銀行／福岡県の支店には振込専用支店1、インターネット専用支店1を含む。
※十八親和銀行／長崎県の支店には振込専用支店1を含む。
※ATMには共同ATMを含む。

「持続的な成長の 実現に向けて」

柴戸 隆成

ふくおかフィナンシャルグループ
取締役会長兼社長



皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方に追悼の意を表しますとともに、罹患された方、ご家族の方によりお見舞い申し上げます。

2020年度の 状況・業績

2020年度の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2度の緊急事態宣言が発出されるなど、厳しい状況が続いた1年となりました。年度後半には、ワクチン接種の進展や各国の財政支援を背景に経済活動および需要が回復に向かい、持ち直しの動きがみられましたが、先行きが不透明な状況が続きました。

そのような環境のもと、当社グループの2020年度業績は、中小企業向け貸出金の積上げによる資金利益の増加や経費の減少により、本業の収益力を示すコア業務純益（3行合算）は、前年比プラス8億円の797億円となりました。

一方、FFG連結当期純利益は、昨年度計上した十八銀行との経営統合にかかる負ののれん発生益1,174億円の剥落により、前年比▲660億円の446億円となりました。

持続的な成長に 向けた取り組み

金融機関を取り巻く経営環境は、国内における人口減少、少子高齢化の進行や低金利環境の長期化といった従前からの課題に加え、テクノロジーの急速な進化や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う新しい生活様式への移行、脱炭素社会への転換をはじめとしたサステナビリティへの意識の高まりなど、お客さまの行動や社会環境の変化が進んでおります。

こうした環境変化を改革と成長の好機と捉え、金融サービス、営業スタイル、人財、組織などあらゆる面において、「進化」に向けた取り組みを加速させる必要があります。

そのため、これまで進めてきた「業務改革」などの主要施策における投資効果を確実に実現させていくとともに、更なる生産性の向上や新たな事業領域へチャレンジすることにより、中長期的な視点で「持続的な成長基盤の強化」に取り組んでまいります。

〔主要施策の効果実現〕

「業務改革」では、デジタル技術を活用し、営業店でのタブレット導入や融資契約の電子化などにより、ペーパーレス化・オペレーションレス化を進めることで、お客さまの利便性向上と業務の効率化を推進してまいりましたが、タブレットの継続的な機能改善やWEB

サービスの浸透、各種取引の電子化推進などにより、今後も更なる利便性の向上と効率化を図ってまいります。

「投信ビジネスの確立」では、「投信のパレット」サービスを熊本銀行・十八親和銀行にも展開し、お客さまの長期的な資産形成のサポートを通じて、投信ビジネスの安定収益化を進めてまいります。

2021年5月にサービスを開始した「みんなの銀行」は、個人のお客さま向けに「預金」「振込」「当座貸越」といった最小限のサービスからスタートしました。今後、「ローン機能」などの基本サービスに加え、「みんなの銀行」独自のユニークなサービスを拡充することで、当社グループの顧客基盤を全国に拡大してまいります。

2021年1月に事務システム統合を実現した「十八親和銀行」では、2021年5月から店舗統合を順次実施し、効率化によって生じる人員を長崎県内のお取引先サポートに活用するなど、シナジー効果を実現してまいります。

〔持続的な成長基盤の強化〕

当社グループは、持続的な成長を実現するため、規制緩和の動向やお客さまのニーズの変化を先取りした新しい事業が恒常的に創出される体制を構築していきます。

その一つとして、当社グループは、デジタル技術を活用して既存業務の効率

化を図るとともに、「iBankマーケットイング」や「みんなの銀行」といった新しいチャネル・サービスの創出へ積極的に取り組んでまいります。

これらのデジタルをベースとしたサービス基盤と、人にしかできない付加価値の高い営業を融合していくことで、ベンチャー企業や異業種にはない営業スタイルを確立してまいります。

また、新たな成長戦略に向けた投資原資を確保するため、これまでの「業務改革」による生産性向上に加え、経費の抜本的な見直しに取り組むなど、経営の効率性を着実に向上させてまいります。

〔サステナビリティへの取り組み〕

当社グループでは、グループ設立と同時にCSR基本方針を掲げ、さまざまな価値提供を通じてステークホルダーの持続可能な成長を促進し、同時に当社グループの持続的な発展を目指す「CSR経営」を実践してまいりました。2020年8月、その考え方を踏襲し進化させ、新たに「サステナビリティ方針」を策定し、全社横断でSDGsの達成に貢献していく体制を構築しました。

これは、当社グループが掲げる基本方針「『地域経済発展への貢献』と『FFG企業価値の向上』の好循環サイクルの実現」に基づく事業活動そのものです。さまざまな取り組みを通じて社会課題を解決することにより、持続可能

な社会の実現に貢献してまいります。

また、当社グループは気候変動への対応を経営戦略上の重要な要素と位置付け、気候変動が企業の財務内容に与える影響について適切な情報開示を求める「TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）」提言への賛同を2020年8月に表明し、提言に沿った体制整備に取り組んでおります。

2021年度 通期の業績見通し

2021年度通期業績は、コア業務純益（3行合算）840億円、FFG連結当期純利益500億円を計画しております。

また、当社では配当性向35%程度を目安とする業績連動型の配当テールを設置しており、1株あたり配当予想は10円増配の年間95円を計画しております。

今後とも、株主、お取引先をはじめ、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすべく、役職員一丸となって業務に邁進してまいりますので、なお一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

銀行を新しくつくるなら、SNSのような場所がいい。

毎日訪れて、自分らしく過ごせる。

グループでつながったり、好きな情報に出会える。

そんな新しい銀行のカタチを、みんなで作っていこう。

まずはお金との関係を、シンプルに、

フレンドリーにすることから。

みんなの銀行、はじまります。



Minna no Ginko

特集

未来の銀行を創る

～「みんなの銀行」というチャレンジ～

**経営環境の変化を読み
打ち手となるチャレンジを**

「みんなの銀行」は、FFGが設立した国内初のデジタルバンクです。2021年1月に銀行システムを稼働、5月28日にはスマートフォンアプリを一般公開し、個人のお客さまを対象に口座開設の受付をスタートしました。口座開設は、24時間365日受付可能で、印鑑や書類のやり取りは必要ありません。最先端のデジタルテクノロジーを活用して、デジタルネイティブ世代のお客さまのニーズに寄り添ったスマホ完結の金融サービスを提供していきます。

デジタルネイティブ世代とは、主に1981年以降生まれの、インターネットやスマートフォンに慣れ親しんで育ってきた世代のことです。そうした人々をターゲットに据えた背景には、社会全体のデジタル化や異業種の参入といった経営環境への課題があります。あらゆる業界がデジタルトランスフォーメーションに取り組んでいます。銀行のお客さまにおいても店頭窓口への来店客数がこの10年で4割減少する一方、インターネットバンキングの年間取引件数は約2・4倍に増加しています。新型コロナウイルス

ウィルスの影響もあり、新しい生活様式のもとでこうした動きは今後さらに加速すると予想されています。

お客さまのデジタルサービスへの移行が進むなかで、今や金融サービスを提供しているのは既存の銀行だけではなくありません。国内でもデジタル企業が銀行業へ参入していますし、海外では異業種企業が銀行免許を取得し、チャレンジャーバンクとして便利で手軽な金融サービスを生み出し、従来の銀行の市場を侵食する状況が実際に起っています。2030年には日本の生産年齢人口の61・9%を占めると推測されるデジタルネイティブ世代のお客さまにとって便利で使いやすく魅力的なサービスを提供し、「この銀行と付き合っていきたい」と選び続けていただくために、FFGは新たなチャレンジに乗り出しました。

**銀行のイメージにとらわれない
独自の世界観を**

「みんなの銀行」では、お客さまのニーズを見極めるため、「みんなの声をカタチにする」ことをコンセプトとして掲げています。この5月はず、「預金」「振込」「当座貸越」といったサービスからス



もっと知ろう、
体験しよう!



みんなの銀行公式ホームページ
<https://www.minna-no-ginko.com/>

タートしましたが、お客さまの「ここが
使いたい」「もっといい」というサービス
があったらいいな」という声をたくさん
集めて、従来の銀行の枠組みにとらわれ
ることなく企画やサービス開発に反映
していきます。機能の差別化だけでな
く、アプリのデザインやサービスの操作
性を重視しながら、お客さまに「使うの
が楽しい」と感じていただける世界観
の構築を目指します。

また、事業者のお客さま向けには、
BaaS (Banking as a Service) の
略) 事業の展開も予定しています。
BaaSとは、お取引先企業に金融機
能やサービスを提供し、銀行に代わって
自社のお客さまに提供していただく仕
組みです。例えば、これまでは個人のお
客さまに銀行へご来店いただく必要が
あったローン契約を、お店での会計時に
その場で済ませられたり、旅行サイトで
の予約後に同じアプリ内でそのまま費
用の自動積立を申し込んだりすること
ができます。モノを買う、サービスを申
し込むといった日常的な場面でも、よりラ
クに金融サービスとお付き合いいただ
けるサービスです。事業者さま、個人の
お客さまの Win-Win を実現する
ことができます。

未来の銀行の在るべき姿を 追求していくために

「みんなの銀行」は、従来の銀行機能
をオンライン化した、いわゆるネット銀
行とは異なり、ターゲット層のニーズに
応えるサービスをデジタル起点で創
る、まったく新しい銀行です。その基盤
として、さまざまなアイデアやスキルを
結集するため、デザイナー、エンジニア、
マーケター、データサイエンティストな
どの多様な人材が参画し、ベテランの銀
行員とともに、スピードに意思決定
ができる組織を構成してサービス開発
に取り組んでいます。

みんなの銀行プロジェクトは、FFG
が10年20年後を見据え、未来の銀行の
在るべき姿、そして、人々の利便性や幸
せを実現する金融サービスとは何かを
追求するものです。銀行の使命や役割
を見つめ直し、組織として成長しなが
ら、より良いサービスを生み出していき
ます。



FFG TOPICS



ふくおかフィナンシャルグループの最近のトピックをご紹介します

「みんなの銀行」サービス提供開始

株式会社みんなの銀行（取締役頭取 横田浩二）は、2021年1月4日に国内初のデジタルバンクとして銀行システムを稼働し、同年5月28日に一般開業しました。口座開設から各種サービスのご利用まで、全てをスマートフォン上で完結する次世代型の銀行として、デジタル起点で設計された、まったく新しい銀行サービスを提供してまいります。



Minna no Ginko

「Wallet+」 150万ダウンロード達成

2021年5月、iBankマーケティング株式会社様が運営する銀行公式無料アプリ「Wallet+」が、150万ダウンロードを突破しました。

これまで、グループ3行のほか、全国6地方銀行の口座利用者向けに順次サービスを提供してきました。今回、サービス開始から約5年で150万ダウンロードを達成し、この1年間では50万ダウンロードも伸びするなど、急成長しています。



商談会の開催

● 沖縄・福岡みらい元気応援商談会

福岡銀行では、新型コロナウイルスの感染拡大により、観光客や売上の減少といった影響を受けている沖縄県の観光業や関連事業者をサポートするために、オンライン商談会を開催しました。福岡・東京の会場に集まったバイヤーへ、事前に沖縄のお取引先から送られてきた商品サンプルを提供し、積極的にPRしました。



● 熊本の物産商談会2021

熊本銀行は、完全オンライン形式で物産商談会を開催しました。食料品・工芸品の製造業者の商品PRを通じて、販路拡大の機会を提供することを目的としています。県内の出展者80社と九州内外のバイヤー27社が参加し、230件近い商談が行われました。



広島銀行との海外ビジネス分野における業務提携

お客さまへの海外ビジネスサポートの強化を目的に、広島銀行と海外ビジネス分野における業務提携を行いました。両行が持つ現地のネットワークや拠点の相互利用のほか、お客さまの相互紹介や各種イベントの共同開催ができるようになります。各地での連携を深めて、お取引先の成長や地域発展に貢献してまいります。



野上恵子選手の現役引退

2006年12月より十八銀行・女子陸上部に所属し、国内外の大会で活躍してきた野上恵子選手が現役を引退しました。29歳で初マラソンに挑戦し、30代で自己ベストや県記録を更新するなど、地域の皆さまの声援に後押しされて粘り強く選手としての成長を続けてきました。14年間、応援ありがとうございました。



- ・「全国都道府県対抗女子駅伝」で2度の入賞に貢献、2018年銅メダル
- ・「2018年ジャカルタ・アジア大会女子マラソン」銀メダル
- ・「2019年東京五輪マラソン代表選考レース(MGC)」5位

献血運動への取り組みが厚生労働大臣表彰を受賞

献血運動の推進に関して積極的に協力し、他の模範となる実績を示した団体として、福岡銀行が厚生労働大臣表彰を受けました。長年にわたる献血への取り組みが評価されたものです。今後ともさまざまな取り組みを通じて地域社会に貢献してまいります。



店舗・ATM情報

十八親和銀行

5/24 貝津支店・諫早中核団地支店 移転リニューアル



駐車場を拡充し、ロビー・応接室などの「お客さまスペース」も拡張しました。「あなたのいちばんに。」を感じていただける空間を目指します。

銀行合併に伴う店番・店名の変更および今後の店舗統合(移転)については、ホームページをご確認ください。

FFGのコーポレートコミュニケーション(IR)年間カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表		●本決算			●第1四半期決算			●中間決算			●第3四半期決算	
株主総会			●									
会社説明会		●						●				
有価証券(四半期)報告書			●		●			●			●	
ディスクロージャー誌			●あなたのいちばんに。編 本誌	●財務データ編			●統合報告書		●あなたのいちばんに。編 ●財務データ編			
Annual Report										●		



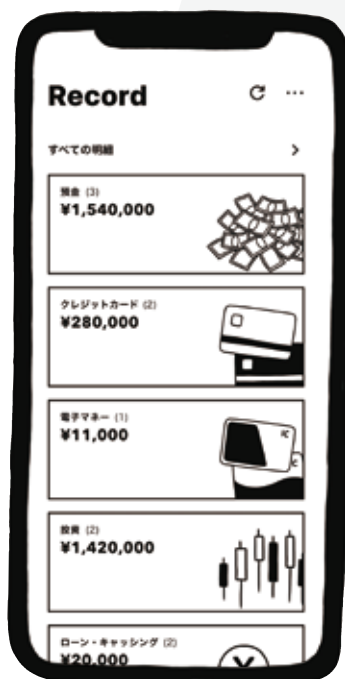
Minna no Ginko

お金のあれこれ、スマホで完結

「みんなの銀行」は、 お財布いらずの銀行です。

Record (レコード)

自分が使ったお金を振り返るためのサービスです。お持ちの銀行口座・クレジットカード・電子マネーを連携すると、一目で残高や明細を確認できます。



Debit Card

(デビットカード)

口座開設と同時に発行される、カード現物のないバーチャルデビットカードです。QUICPay+™加盟店でタッチ決済が利用できます。*

Box (ボックス)

貯蓄預金の中に仮想の口座を20個まで作ることができます。目的別にお金を分けて管理できるほか、日次から年次まで1円単位の自動積立も可能です。自分らしい貯蓄スタイルを実現できます。



現金が必要なときは？

セブン銀行ATMの画面上に表示されるQRコードをスマートフォンで読み取ると、カードレスで入出金ができます。

どこで口座開設できる？

スマートフォンから24時間365日いつでも口座開設ができます。まずは「みんなの銀行アプリ」をダウンロード！

iPhoneをお使いの方



アプリケーション推奨環境 (対応OS) ※
iOS 13~14

Androidをお使いの方



アプリケーション推奨環境 (対応OS) ※
Android 8~11

2021年6月1日現在

【ご留意事項】

- 推奨環境においても、一部動作に制約がある場合があります。
- Recordは、株式会社マネーフォワードと提携して提供するサービスです。
- ※QUICPay+加盟店でのタッチ決済のご利用には、Apple Pay™、Google Pay™の登録が必要です。
- QUICPay+は、株式会社ジェーシービーの商標です。
- Apple Payは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Google Payは、Google LLCの商標です。

お客さまサポート

みんなの銀行のサービスについてご不明な点は、公式ホームページの「よくあるお問合せ」をご確認ください。ご質問は「お問合せフォーム」から受け付けております。





時間も労力もかかる紙や伝票のやり取り、
手作業で行っていた振込処理や入金確認が

**デジタル化で
もっとラクに！スムーズに！**

2021年6月以降 福岡銀行で先行導入予定



“受発注業務や銀行決済業務を
もっと効率化できたらいいのに”
“リモートワークができればいいのに”
そう考えたことはありませんか？
FFGでは、その実現をお手伝いしています！



Point1

**受発注のデジタル化、
ペーパーレス化で
業務が円滑に！**

伝票など紙の管理、郵送に
かかる手間や費用を削減。
リモートワークも可能に！

Point2

**お取引先への
支払振込が
ラクラクに！**

取引先別の振込額を自動で
集計。BB-Webと連携して、
振込情報の入力作業も不要
に！

Point3

**入金消込みを
自動化！**

入金予定金額の集計と口座
の入金明細との照合を自動
化し、月末に溜まりがちな作
業を大幅に削減！

Point4

**お取引先にも
呼びかけやすい！**

お取引先には、本サービス
の無料版をご利用いただけ
ます。ご協力が得られるよ
う、福岡銀行がお声かけを
サポートします！

2021年6月1日現在

●詳細は、「ふくぎんEASYBIZ」のWEBサイトをご確認ください

ふくぎんEASYBIZ

検索

<https://www.easybiz.fukuokabank.co.jp/>



問い合わせ先:

福岡銀行 ビジネス開発部 EASYBIZ事務局

TEL092-723-1856

【受付時間】平日9:00~18:00 但し、銀行休業日は除きます。

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア



地域と銀行つながるバトン

昨日から今日、今日から明日。私たちは、バトンのように日々を送る。
そこに、誰かの「こうしたい！」が加われば。日々は生き生きと色彩を持ち始める。
地域を変える活力も、初めは小さな願いから。
地域と銀行がバトンでつながったとき、新しい物語が、始まります。



地域の魅力とそれを支える人々のストーリーを紹介しています



地域おこし協力隊×福岡県×福岡銀行 (FFGグループ)

地域の魅力を伝え、
つながっていく。
そして、この場所に
居続けたい。
福岡地域おこし協力隊の
ストーリー



西南学院大学×糸島市×福岡銀行 (FFGグループ)

学生が地域課題の
解決策を提案。
地方創生の産学官金
連携ストーリー



山口酒造場×住吉酒販×福岡銀行 (FFGグループ)

“おくるたしなむ
福岡九州の日本酒”
～福岡の日本酒の
魅力と文化継承
への想い～



杖立温泉観光協会×熊本日日新聞社×熊本銀行 (FFGグループ)

復旧で終わらせない。
“eスポーツ”で
災害“復興”を目指す
ストーリー

サステナビリティへの取り組み 2021

FFG's Sustainability Report

SDGs支援子会社の設立

SDGsに新しい“ものさし”を



FFGは、SDGs支援子会社「株式会社サステナブルスケール」を設立しました。SDGsの取り組みを通して持続的に成長する地域社会と、それを支える企業の創出・成長を促す“架け橋”となることを目指しています。地域社会・企業の持続可能性を重視した経営の転換、いわゆる「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」の実現に向けた取り組みを推進し、地域社会の健全な成長に貢献してまいります。

ビジネス体制

サステナブルスケールでは、国連「新国富報告書」代表である九州大学主幹教授の馬奈木俊介氏を取締役に迎え、地域社会・企業のSDGsに対する取り組みを評価し、定量的な見える化を行います。

「FFG」「九州大学」を軸に据え、さまざまな分野の知見を有する専門家の方々と連携し、「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」に向けたアドバイス・ノウハウを提供してまいります。



公式ホームページ <https://www.fukuoka-fg.com/s-scale/>

サステナビリティ方針や取り組み課題についてはホームページに掲載しています
<https://www.fukuoka-fg.com/csr/sustainability.html>



SDGs=持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)

貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和社会など、世界が直面する課題に対して、それらを解決していくための方法を17の目標にまとめたもの。国連に加盟する全ての国が2030年を期限に、その達成に向けて尽力していく国際目標。



地域総合商社事業における長崎エリア支援



iBankマーケティングの地域総合商社事業では、地域企業さまの販路のデジタルシフトを実現するために、テストマーケティングやブランディング、オンライン上で販売する仕組みなどを提供しています。

長崎においては、ブランディングに関する補助金制度を設立し、オンラインストア「エンニチ」の出店企業とデザイナーとのマッチングなどを通じて、販路のデジタル化に必要なブランディングサポートに取り組んでいます。また、2020年度には、従前より長崎県が実施している「長崎デザインアワード」の受賞企業に対して、地域総合商社が運営する「エンニチ」内での販売、特集企画によるプロモーション、オンライン商談会、カタログ制作の業務を一貫して行いました。

今後も、地域活性化に向けた取り組みを展開していきます。

**FFGベンチャービジネスパートナーズが、
NEDOの「研究開発型スタートアップ
支援事業」に係る“認定VC”に採択**

FFGベンチャービジネスパートナーズは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「研究開発型スタートアップ支援事業」において、認定ベンチャーキャピタルとして採択されました。今後はNEDOと協調し、シード期スタートアップの研究開発にかかる資金の調達やハンズオン支援を行うことで、地域経済の幅広い課題解決に貢献していきます。

「北九州SDGsイノベーション&
アントレプレナーシッププラットフォーム
(通称:KIEPS)」の設立

FFGベンチャービジネスパートナーズは、九州工業大学・北九州市立大学・長崎大学と共同で「北九州SDGsイノベーション&アントレプレナーシッププラットフォーム」を設立しました。内閣府よりスタートアップ・エコシステム推進拠点都市に選定された北九州市をベースに、アントレプレナーシップ教育や技術シーズ発掘によるイノベーション創出の実現を目指します。

[X-Tech Innovation 2020]の開催



2015年より継続しているビジネスコンテスト「X-Tech Innovation 2020」を、北海道銀行、岩手銀行、七十七銀行、沖縄銀行と共同開催しました。ポストコロナ時代の“New Normal”をテーマに掲げた今回は、約130件の応募があり、各地区での選考を経て、うち8社が東京で行われたグランプリファイナルでアイデアを競いました。今後も、業界・業種を超えて、スタートアップ企業の発掘・地場企業へのマッチング機会創出に取り組んでいきます。

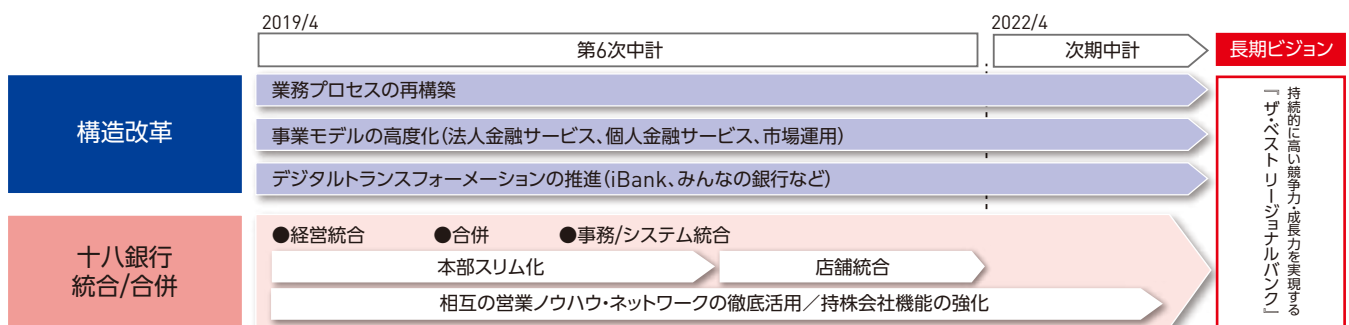
ふくおかフィナンシャルグループ 経営戦略

FFGが目指す姿

当社グループは、2007年4月の設立以降、福岡県、熊本県、長崎県を中心とした九州全域にネットワークを有する広域展開型地域金融グループを形成し、シングルプラットフォーム・マルチブランドの経営スタイルにより、地域経済の発展に資するさまざまな活動を展開しております。

一方で、地域金融機関を取り巻く経営環境は、人口減少・少子高齢化の進行、低金利環境の長期化といった構造的課題に加え、デジタル技術の急速な進展によって異業種からの新規参入が相次ぐなど、一層厳しさが増しております。

こうした環境下、当社グループでは、「構造改革」への取り組みで捻出した経営資源の成長分野への投入やデジタル技術の活用等により、事業モデルを高度化させていくとともに、事業領域の更なる拡大に向けた基盤の構築を進めてまいります。加えて、2020年10月に旧親和銀行と旧十八銀行の合併により誕生した「十八親和銀行」では統合によるシナジー効果を早期に創出することで、長崎の経済活性化に貢献してまいります。この2つの戦略オプションの効果を融合させ、長期ビジョンとして掲げる「持続的に高い競争力・成長力を実現する『ザ・ベストリージョナルバンク』」を目指してまいります。



第6次中期経営計画 (2019年4月～2022年3月)

2019年4月からスタートした第6次中期経営計画では、基本方針「“地域経済発展への貢献”と“FFG企業価値の向上”との好循環サイクルの実現」に基づき、「業務プロセスの再構築」「事業モデルの高度化」「デジタルトランスフォーメーションの推進」による構造改革と、それを下支える「人財力の最大化」「グループ総合力の強化」の5つの基本戦略を設定し、進化に向けたさまざまな取り組みを展開してまいります。

■ 基本方針



■ 基本戦略(5本柱)

- I. 業務プロセスの再構築
- II. 事業モデルの高度化
- III. デジタルトランスフォーメーションの推進
- IV. 人財力の最大化
- V. グループ総合力の強化

株主還元

当社グループでは、企業価値を高め株主価値の向上を図ることを基本とし、株主の皆さまに対する利益還元につきましては、業績連動型の配当方針(配当テーブル)を採用しております。第6次中期経営計画では、目標とする配当性向(連結)を35%程度とし、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針です(但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります)。

■ 配当目安テーブル

当期純利益(連結) *	年間配当金目安	配当性向
600億円以上	115円～	～37%
550億円以上～600億円未満	105円～	33～36%
500億円以上～550億円未満	95円～	33～36%
450億円以上～500億円未満	85円～	32～36%
400億円以上～450億円未満	75円～	32～36%
350億円以上～400億円未満	65円～	31～36%
300億円以上～350億円未満	55円～	30～35%
250億円以上～300億円未満	50円～	32～38%
200億円以上～250億円未満	45円～	34～43%
150億円以上～200億円未満	40円～	38～51%
150億円未満	35円～	45%～

※親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

■ 1株あたり配当金

	2019年度	2020年度	2021年度予
中間期	42.5円	42.5円	47.5円
期末	42.5円	42.5円	47.5円
年間	85円	85円	95円

ふくおかフィナンシャルグループ 2020年度の業績ハイライト

損益状況

3行単体合算(注)

(単位:億円)

	2019年度	2020年度	前年比
業 務 粗 利 益	2,013	2,025	13
資 金 利 益	1,784	1,790	5
役 務 取 引 等 利 益	210	205	▲5
特 定 取 引 利 益	0	0	0
そ の 他 業 務 利 益	18	31	13
経費(除く臨時処理分)▲	1,231	1,224	▲7
業 務 純 益	182	924	742
コ ア 業 務 純 益	789	797	8
除く投資信託解約損益	786	796	10
信 用 コ ス ト ▲	614	3	▲611

FFG連結

経 常 利 益	▲53	604	657
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,106	446	▲660

コア業務純益【2期ぶり増益】

資金利益の増加等により、前年比+8億円増加の797億円となりました。

連結経常利益【2期ぶり増益】

信用コストの減少等により、前年比+657億円増加の604億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益【4期ぶり減益】

前年度要因の剥落(旧十八銀行との株式交換に伴う負ののれん発生益1,174億円計上)等により、前年比▲660億円減少の446億円となりました。

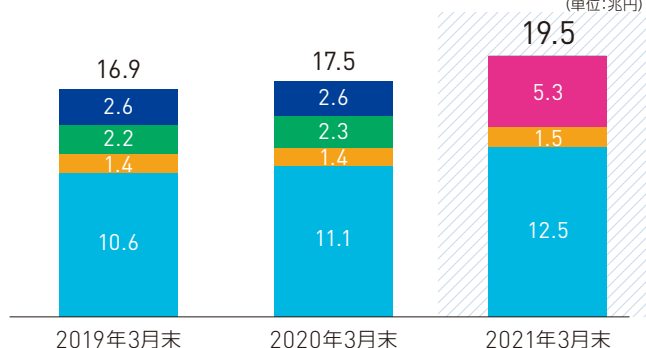
(注) 2020年10月1日に旧親和銀行と旧十八銀行が合併し、十八親和銀行となりました。
合併以前の計数については、両行を単純合算した計数を記載しております。

総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、個人預金・法人預金ともに堅調に推移した結果、前年度末比1兆9,760億円増加し、19兆5,740億円となりました。

総資金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■旧親和銀行
■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:兆円)

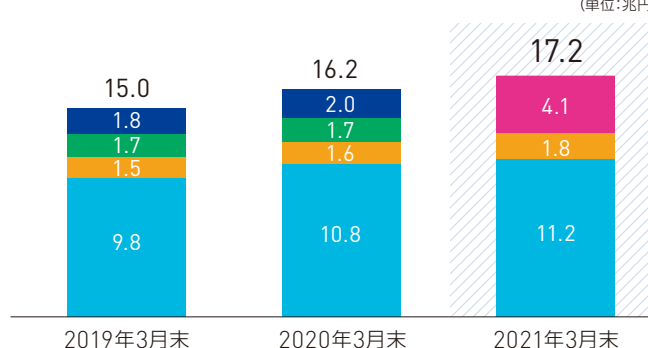


貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、前年度末比1兆100億円増加し、17兆2,946億円となりました。

貸出金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■旧親和銀行
■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:兆円)

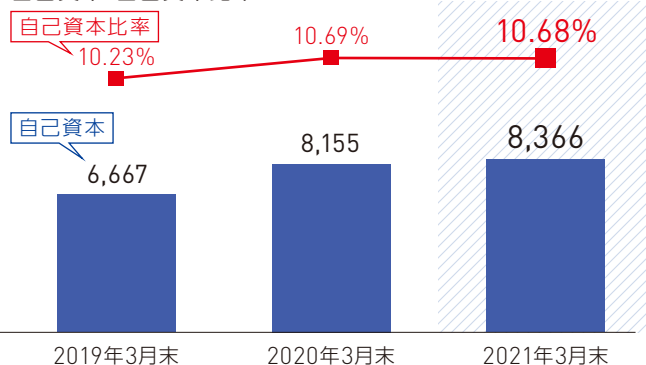


自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比211億円増加し、8,366億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.01%低下し、10.68%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

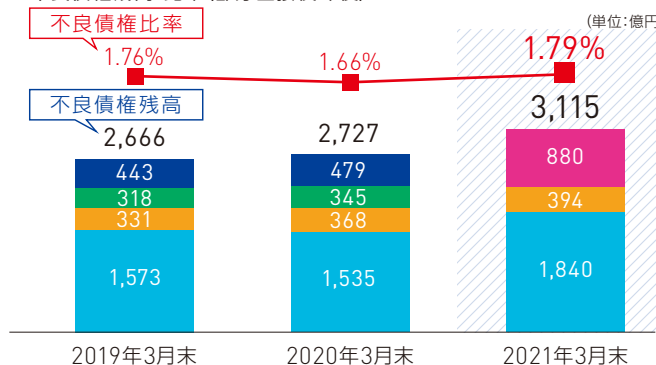


不良債権の状況(3行単体合算)

不良債権残高は、前年度末比387億円増加し、3,115億円となりました。不良債権比率は同0.13%上昇し、1.79%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■旧親和銀行
■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:億円)



※オペレーショナル・リスク相当額は、2019年9月末から基礎的手法により算出しております。
※旧十八銀行及びその連結子会社は2019年4月より連結対象のため、2019年3月末の計数には
含まれておりません。

福岡銀行 2020年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2019年度	2020年度	前年比
業 務 粗 利 益	1,313	1,339	26
資 金 利 益	1,135	1,151	17
国 内 部 門	1,053	1,059	6
国 際 部 門	82	93	10
役 務 取 引 等 利 益	161	157	▲4
特 定 取 引 利 益	0	0	0
そ の 他 業 務 利 益	17	31	14
経費(除く臨時処理分)▲	677	684	6
業 務 純 益	244	755	511
コ ア 業 務 純 益	642	651	8
除く投資信託解約損益	639	648	9
経 常 利 益	238	656	418
当 期 純 利 益	191	495	304
信 用 コ ス ト ▲	389	24	▲366

コア業務純益

資金利益の増加等により、前年比+8億円増加の651億円となりました。

経常利益

信用コストの減少等により、前年比+418億円増加の656億円となりました。

当期純利益

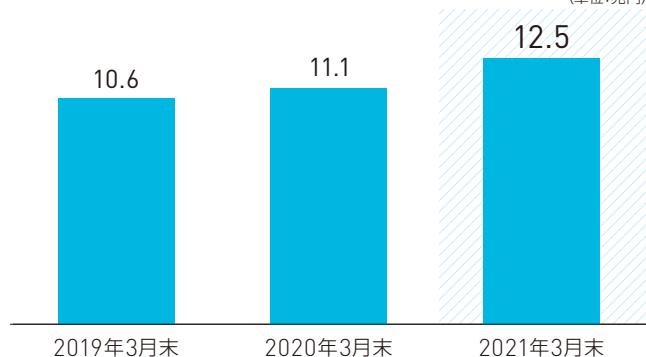
前年比+304億円増加の495億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比1兆4,561億円増加し、12兆5,992億円となりました。

総資金期末残高

(単位:兆円)

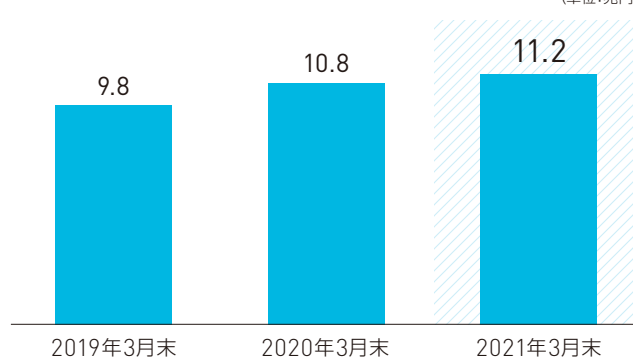


貸出金の状況

貸出金は、前年度末比4,652億円増加し、11兆2,822億円となりました。

貸出金期末残高

(単位:兆円)

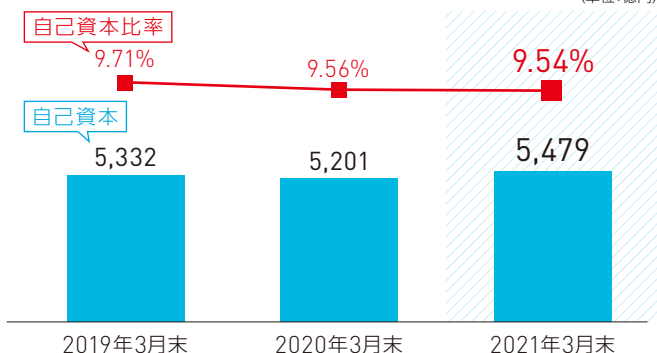


自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比278億円増加し、5,479億円となりました。自己資本比率[パーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.02%低下し、9.54%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

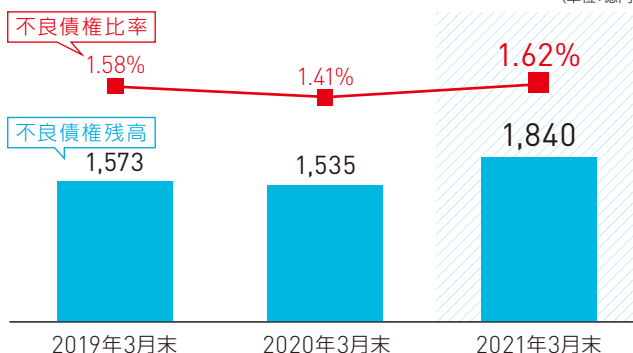


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比306億円増加し、1,840億円となりました。不良債権比率は同0.21%上昇し、1.62%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



熊本銀行 2020年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2019年度	2020年度	前年比
業 務 粗 利 益	187	189	2
資 金 利 益	178	178	▲0
国内部門	178	178	0
国際部門	0	0	▲0
役 務 取 引 等 利 益	8	10	2
そ の 他 業 務 利 益	1	1	0
経費(除く臨時処理分)▲	136	133	▲3
業 務 純 益	▲6	56	63
コ ア 業 務 純 益	51	56	5
除く投資信託解約損益	51	56	5
経 常 利 益	▲31	59	90
当 期 純 利 益	▲19	47	66
信 用 コ ス ト ▲	68	▲9	▲77

コア業務純益

役務取引等利益の増加等により、前年比+5億円増加の56億円となりました。

経常利益

信用コストの減少(戻り益)等により、前年比+90億円増加の59億円となりました。

当期純利益

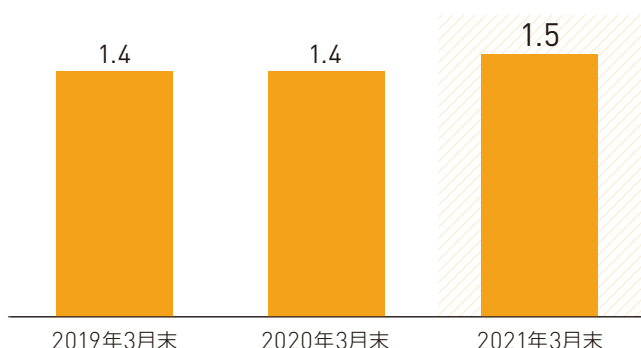
前年比+66億円増加の47億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比1,402億円増加し、1兆5,792億円となりました。

総資金期末残高

(単位:兆円)

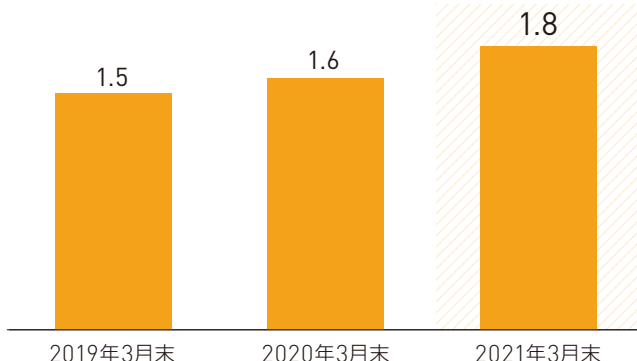


貸出金の状況

貸出金は、前年度末比2,654億円増加し、1兆8,815億円となりました。

貸出金期末残高

(単位:兆円)

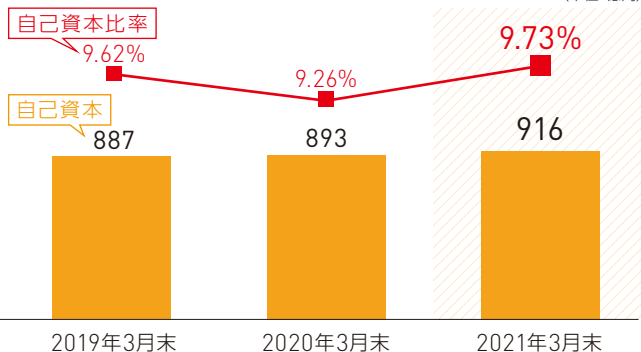


自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比22億円増加し、916億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.47%上昇し、9.73%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

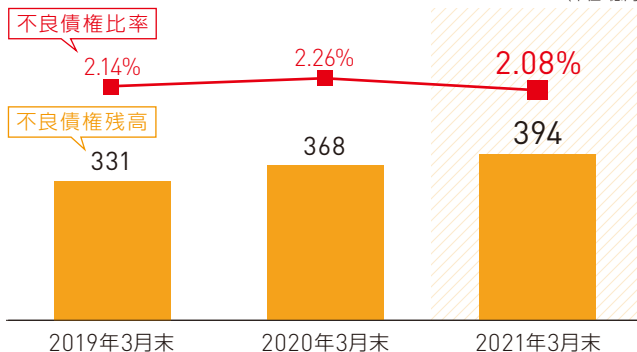


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比26億円増加し、394億円となりました。不良債権比率は同0.18%低下し、2.08%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



十八親和銀行 2020年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2019年度	2020年度	前年比
業 務 粗 利 益	513	498	▲15
資 金 利 益	471	460	▲11
国 内 部 門	458	437	▲22
国 際 部 門	13	23	10
役 務 取 引 等 利 益	41	38	▲3
そ の 他 業 務 利 益	0	▲1	▲1
経費(除く臨時処理分)▲	418	407	▲10
業 務 純 益	▲56	90	147
コ ア 業 務 純 益	95	90	▲5
除く投資信託解約損益	96	92	▲3
経 常 利 益	▲123	21	143
当 期 純 利 益	▲145	31	176
信 用 コ ス ト ▲	157	▲12	▲169

コア業務純益

資金利益の減少等により、前年比▲5億円減少の90億円となりました。

経常利益

信用コストの減少(戻り益)等により、前年比+143億円増加の21億円となりました。

当期純利益

前年度要因の剥落(店舗統合にかかる固定資産減損損失等の計上)等により、前年比+176億円増加の31億円となりました。

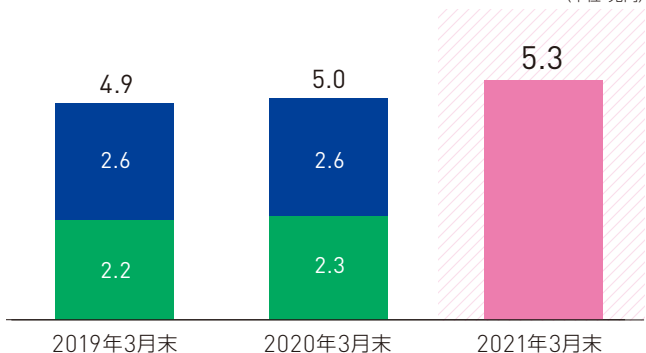
(注)2019年度は旧親和銀行・旧十八銀行を単純合算した計数を記載しております。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比3,796億円増加し、5兆3,954億円となりました。

総資金期末残高

■旧親和銀行 ■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:兆円)

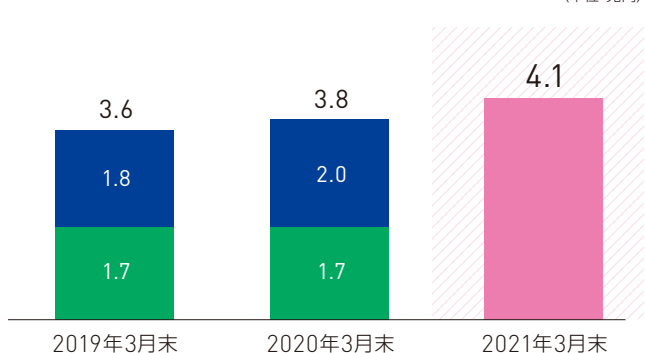


貸出金の状況

貸出金は、前年度末比2,793億円増加し、4兆1,307億円となりました。

貸出金期末残高

■旧親和銀行 ■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:兆円)

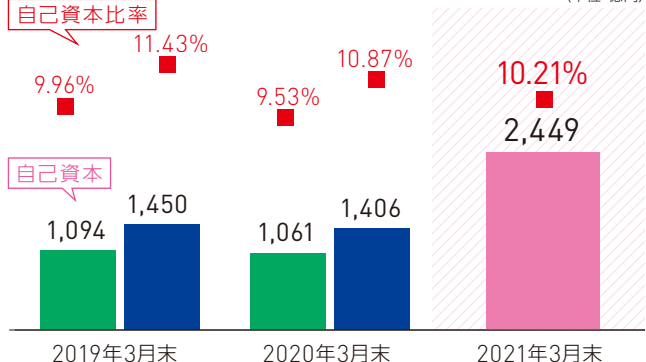


自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は、2,449億円となりました。自己資本比率[パーゼルⅢ(国内基準)]は、10.21%となりました。

自己資本・自己資本比率

■旧親和銀行 ■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:億円)

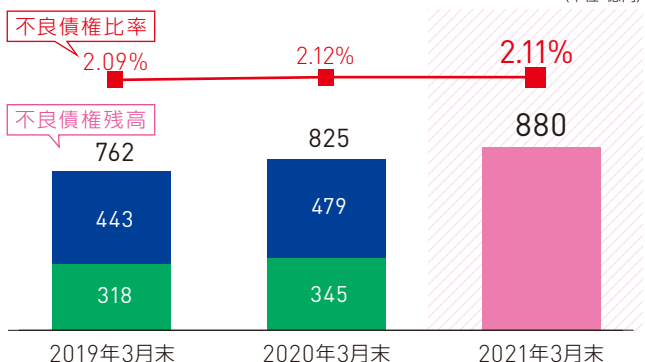


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比55億円増加し、880億円となりました。不良債権比率は同0.01%低下し、2.11%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

■旧親和銀行 ■旧十八銀行 ■十八親和銀行
(単位:億円)



ふくおかフィナンシャルグループの 新しいブランドCMシリーズがスタートします！

これまでもご出演いただいていた俳優の瀬戸康史さんに加え、
女優の井桁弘恵さんにもご出演いただいています！
2021年7月からオンエア予定です！



「カタチは変わる。
想いは変わらない」

時代によって手段や考え方は変わる。
それでも、お客さまや地域と
向き合う姿勢や想いは変わらない。
FFGが大切にしている2つの価値観を描きます。



Coming Soon・・・

FFGの職場を含む福岡市近郊で行われた撮影風景。
FFG社員もエキストラとして参加しています。



商号等	株式会社福岡銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第7号	株式会社熊本銀行(登録金融機関) 九州財務局長(登金)第6号	株式会社十八親和銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第3号	FFG証券株式会社(金融商品取引業者) 福岡財務支局長(金商)第5号
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会	日本証券業協会	日本証券業協会	日本証券業協会 第二種金融商品取引業協会